



水戸市男女平等参画基本条例の啓発と
男女平等参画社会の形成と促進のために

WAVE

第 14 号

発行日：平成 28 年 4 月 30 日
発行：特定非営利活動法人
M・I・T・O 21
〒310-0851 水戸市千波 508-34
発行責任者：黒澤輝子

第 8 回通常総会を迎えるにあたって

理事長 黒澤 輝子



早いもので 1 年があつという間に過ぎていきます。
27 年度をふりかえりますと、4 月に私たちの活動拠点である水戸市男女平等参画センター「びよんど」がリニューアルオープンしました。「びよんど」がみと文化交流プラザの 4・5・6 階に一新したことは本当にうれしいことで、5 月の通常総会を 501 研修室で開催しました。

27 年度初めの事業は超高齢社会を見据えた特別養護老人ホーム「祐功の館」を開業した友人の施設の見学、そして大人の社会科見学、茨城県でも最南端の五霞町にあるキューピーとヤクルトの茨城工場をモノづくりの現場での男女共同参画の状況を見学してきました。

7 月には茨城県女性活躍推進支援事業の助成金をいただくことができ、夏休み親子料理教室を開催、お父さんが子どもさんと料理をしている間、お母さんにはヨガ教室でリフレッシュタイムをとというアイデアで子育て世代の応援講座を行いました。また 12 月には女性の活躍推進として水戸市内で法律事務所を開業された女性弁護士をお招きして「社会的弱者を守るものは何か」と題し、講演と座談会を開催しました。

毎年 9 月に行われる水戸市男女平等参画推進月間には那珂市出身の長須与佳さんの「琵琶・尺八で奏でる男女平等参画ハーモニー」講演会を開催、和楽器奏者の活動と伝統芸能を次世代へ継承する活動を熱心に拝聴しました。また水戸市より委託を受け、企画運営のヒューマンライフシンポジウム 2015 をびよんどの 6 階大会議室で開催いたしました。震災以来会場が、ようやく活動拠点での実施になり、安堵したこと、講師に安藤和津さんをお迎えして「明日を素敵に生きるには」をテーマにご講演いただき、会員の皆様の協力のおかげで無事終了することができました。

実施後に作成いたしました記録集を見ますと、水戸市男女平等参画基本条例やワークライフバランスを啓発する活動もだいぶ理解が進んできた感もあり、次世代の方たちへバランスのとれた社会への道を切り開いてきたと思うところです。この一年間のご協力を改めて深く感謝申し上げ、今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

＝目次＝

茨城県女性活躍推進企画事業から
親子料理教室

社会的弱者を守るものは何か・・・2 頁

イタリアの熱い風に吹かれて

わいわい五軒文化祭 ……3 頁

一連携会議及びトップセミナーから一

……4 頁

夏休み、パパと料理でママを笑顔に！

平成27年8月2日(日)9時30分よりパパと子どもたちが料理を作り、ママは別室でゆったりヨガで体と心を癒して、お昼はみんなで一緒に食事を囲みました



～社会的弱者を守るものは何か！ 弁護士さんとともに考えよう～

平成27年12月5日(土)みと文化交流プラザ 5F 501 研修室

講師：望月直美 弁護士



弁護士という職業に対して、講師はどんな女性だろうか。顔立ちは柔らかく、もの静かで言葉はやさしく丁寧な方。関西の地方大学出身ということで、就職活動に苦勞したことから、法律家を目指したとのこと。司法試験合格のためには5年を費やし、最後の一年は試験に向け、勉強漬けの毎日であったそうだ。弁護士となり、依頼を受け当事者の立場で解決に向け活動してきた中で、感謝されることより、無念を感じるお話が多く、大変な仕事であるからこそ、誰もができる仕事ではないのだろう。

座談会では、日頃から弁護士に相談してはと思ってもら位かかるかとか、どんな方が弁護士さんか心配があるものだが、情報公開しており、特別大きな相続などのお金が介在するもの以外は実に一般的な相談料であり、相談するときは込み入った案件などは内容を整理して、相談時間を有効に使うことが大切であると話してくれた。法テラスなどを活用することも良いとのこと。参集者からは生活困窮の隣人のことや、代々親から預かる土地の境界の問題などの法的措置や行政の支援策などに話が広がった。

社会的に不利益を受けやすい弱者と言われる立場の人に対して、我々市民が知り得た情報を伝え、力になり支えあっていくこと、これこそ女性が輝く時代には必要であるし、頑張る弁護士望月直美氏へのエールになることを確信した講座であった。(事務局記)



イタリアの熱い風に吹かれて～ミラノ国際博覧会

大内 晴江

万博史上初「食」をテーマに、2015年5月1日から10月31日の184日間ミラノ万博は開催されました。伝統技術と最新技術が融合した木組みが美しい日本館のテーマは「共存する多様性」。一汁三菜や発酵食品などの食文化の知恵や技術などを映像やハイテクを駆使して美しく表現し高い評価を受け、「展示デザイン」部門で金賞も受賞。入館まで10時間待ちの日もあるなど人気も高く、イタリアのメディアは「詩情と科学技術のバランスが絶妙」「行列嫌いのイタリア人を並ばせた」と日本館を評価したそうです。

そこに私が所属するJTAA ジャパンテーブルアーティスト協会が7月末に参加を致しました。日本館2階のイベント広場で、日本列島に全国のお雑煮を展示～茨城は常陸大宮市や常陸太田市に伝わる珍しい豆腐餅～、セミナーでは機械で作るお餅とお正月のテーブルを紹介しました。お餅を丸めたり、お箸の使い方などの体験や、お雑煮の試食も。抽選で会員手作りの着物や帯地のエプロンやポーチなどをプレゼントしました。プレゼントを受け取った方々の溢れんばかりの笑顔はとても印象的でした。

ミラノ万博に向けて1年をかけて準備をしましたが、直前になって調理器具や食品、農産物の持ち込みが難しくなり、会社を変更したり、ミラノで購入することでなんとか切り抜け、7月26日成田からミラノへ。

スタッフは16人の女性と機械担当の男性、そしてツアー添乗員の男性の18人。荷解き、設営、撤去、梱包もすべてスタッフでこなしました。勿論徹夜作業です。イベント広場担当の方から「女性の力で成し遂げたのはすごい」「もう少し続けてほしかった」と、お褒めの言葉をいただきました。当初は言葉の壁をどう乗り越えたらと心配しましたが、気持ちで通じることを実感しました。あるスタッフはいろいろな方とお話をしていました。何語？と思いましたが、なんとすべて日本語！でも会話は成立していたようです。

万博参加終了後は、ミラノとフィレンツェで研修。研修プログラム案を伺った時には、家具を中心にプロダクト、家電、グラフィックデザイン分野で活躍する猪田恭子さんを存じ上げませんでした。その日東京から家に帰りテレビをつけた瞬間、ミラノの猪田さんが映し出され、是非ともお会いしたい方になりました。

8月2日に猪田さんのスタジオ「INODA+SVEJE」をお訪ねすることが出来、ミラノが時代をリードするデザインを産みだしてきた背景と家具作りの工程などのお話を伺いました。猪田さんはとても魅力的な方で、またさりげなく補佐をするSVEJEさんとの素敵なパートナーシップも拝見させていただきました。8月6日日本に戻りましたが、貴重な経験をした12日間でした。

次の大規模博覧会は、2020年10月20日～2021年4月10日にアラブ首長国連邦のドバイで開催されます。

わいわい五軒文化祭 平成27年11月7、8日



五軒市民センターの活動団体として

茨城県女性活躍推進提案事業の実施状況をパネル展示、会場内でDVD上映

①「明日の記憶」渡辺謙主演:

若年性認知症と家族のものがたり

②「0.5 ミリ」安藤サクラ主演 介護士サワと人と人、心の距離…出入りが多い会場でしたが、パソコンの小さい画面ながら、DVDで内容を深めることができました。

—連携会議及びトップセミナーから

大森 三男

水戸商工会議所と茨城県経営者協会等との連携による、連携会議及びトップセミナーが、2月16日(火)の午後、ホテルレイクビュー水戸にて小室叔恵(株)ワーク・ライフバランス代表取締役社長の講演があり参加した。事業所トップの意識改革と情報共有を目的に、平成28年になってから2回目のセミナーであった。

地域の事業所がさらに発展、地域経済が活性化していくために重要とされるワーク・ライフバランスや女性活躍推進について、水戸市男女平等参画課と共催事業として行われ、中小企業の事業主等が集まり、今後の取り組みを具体化する方策を学びあった。

戦後、日本の女性の中には高い水準の教育を受け、社会の不条理を改革する活動を進め、トップリーダーとして活躍してきた人もあり、性別役割分担の社会構造もかなり改善してきていると思っているが、世界的に見ると女性の管理職や政策決定の場への登用は世界の中では低位置である。希望する職業をめざし、学業を修め就職をしても結婚し、出産を迎えると仕事と家庭をどう折り合いをつけるか、どう選択するか、周囲のサポートを得ながら、乗り越えるかあきらめるかで、それは女性だけの問題でないことは明らかなのです。

新聞によると、育児と介護の「ダブルケア」に直面している人が全国で約25万人に上り、8割が30～40代であることが4月28日内閣府の推計で分かった。子育てや親の介護を理由とした離職が問題となる中、働き盛りの世代に最も重い負担がかかっている。

先般の小室氏の講演ではこれからは「男性だけが活躍する社会」では発展できない時代であり、女性、高齢者、障害者といった多様な人たちや、育児・介護をしながら働きたい人にも力を発揮してもらう必要がある。企業・事業所においては多様性のある従業員にマッチした労働環境を用意することで、優秀な人達が集まるようになり、発展が可能になる。経済発展しやすい人口オーナス期の図を使い説明。

弊社は、始業時間も就業時間もフレックスで、従業員も仕事に関して男女問わず、年齢も幅広く、多様な人材を雇用しているため、ワーク・ライフバランスな働き方は誰もが実践し、互いの事情を勘案して配置を心がけることができる業種です。あとはトップの考え、つまり私の考え次第であり、これからも従業員には実効性のある支援をしていこうと心がけています。

人口オーナス期

現在の
日本

- ・生産年齢人口が少ない＝働く人が少ない
- ・高齢者比率が高い
- ・社会保障費が増加 保障制度の維持が困難に

経済は伸び悩む

日本はすでに1990年代、
人口オーナス期に突入!

人口オーナス期に経済発展しやすい働き方

- ・なるべく男女ともに働く
知的労働の比率が高くなるため男女ともに働くことが適している
- ・なるべく短時間で働く
労働賃金が高騰するため短時間で働く
- ・なるべく違う条件の人をそろえる
新しいアイデア商品、サービス提供のために多様な人材が必要

編集後記：昨年11月3日にヤクルト水戸本社のピンクリボンウォーキングが千波湖周辺を会場に行われ、本法人も参加してきた。健康寿命を楽しむためには、検診をかかさないと、日頃から健康を考えた行動をすること、ボランティアなど社会活動で頭や心を活性化していくこと。それを継続していく仲間がいる、そういう社会を目指して、びよんどを拠点に仲間を増やしま

